

JIS

UDC 669.018.9 : 620.168.3

H 7405

繊維強化金属の引張試験方法

JIS H 7405-1993

(1999 確認)

(2005 確認)

平成 5 年 7 月 1 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：平成 5.7.1

官 報 公 示：平成 5.7.21

原案作成協力者：財団法人 大阪科学技術センター附属ニューマテリアルセンター

審 議 部 会：日本工業標準調査会 非鉄金属部会（部会長 福迫 達一）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部材料規格課（〒100 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

繊維強化金属の引張試験方法

H 7405-1993

Test method for tensile properties of fiber reinforced metals

1. 適用範囲 この規格は、長繊維によって強化された金属基複合材料の室温及び高温中における引張試験方法について規定する。

備考1. 繊維強化金属の高温引張試験方法は、附属書による。

2. この規格の引用規格を、次に示す。

JIS B 7502 外側マイクロメータ

JIS B 7507 ノギス

JIS B 7721 引張試験機

JIS B 7741 金属材料引張試験用伸び計

JIS C 1602 熱電対

JIS H 7006 金属基複合材料用語

JIS Z 2241 金属材料引張試験方法

JIS Z 8401 数値の丸め方

2. 用語の定義 この規格で用いる主な用語の定義は、JIS H 7006、JIS Z 2241によるほか、次による。

(1) 引張応力 任意の時点において試験片に加えられた引張荷重を試験片のゲージ部の原断面積で除した値。

(2) 引張強さ 引張試験中に試験片に加わる最大引張応力。

(3) ひずみ 試験片の標点距離の変化量を元の標点距離で除した無次元量。

(4) 破断ひずみ 引張試験中に試験片に加わる最大ひずみ。

(5) 引張弾性率

(a) 引張荷重—ひずみ線図又は引張応力—ひずみ線図において、初期の傾き部分から求めた値。量記号は、 E_1 とする(図1参照)。

(b) 引張荷重—ひずみ線図又は引張応力—ひずみ線図を用いて、ひずみ量0.5 %で接線を引きその傾き部分から求めた値。量記号は、 E_2 とする(図1参照)。